

「おはなしレストランライブラリー」を拠点とした地域児童図書サービスの向上

他の児童図書施設を参考として

松江キャンパス地域文化学科 教授 岩田英作
おはなしレストラン司書 尾崎智子・秦みのり

島根県立大学松江キャンパスに児童図書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」が開設されて2024年で15周年を迎えたのを期に、おはなしレストランライブラリーにおける児童図書サービスのさらなる充実を図るため、2024年度から2か年計画で他の児童図書施設を視察した。2025年度に視察した児童図書施設は次の7施設である。

岩田担当：前橋こども図書館、えほん村

尾崎担当：有田川町地域交流センター[ALEC]、奈良教育大学、高知こども図書館

秦 担当：京都教育大学、こども本の森 中ノ島

以下、岩田が担当した前橋こども図書館、えほん村について概略を述べる。

●前橋こども図書館（群馬県前橋市）について

「前橋プラザ元気21」ビルの2階にある。ワンフロアの広さでは国内最大級、書架も低めにそろえてあり、開放的な空間が広がる。同フロアには、遊具を多数そろえた「プレイルーム」、子育て相談ができる「親子元気ルーム」があり、2階すべてが子育て支援施設となっている。絵本の読み聞かせなど定例のおはなし会だけでも1か月あたり12回程度、そのほか、絵本や紙芝居のおはなし会など、合計すると年間200回を超える企画が用意されている。前橋市では、前橋市立図書館本館とこども図書館のほか、市内16のコミュニティセンターを分館として結んで、「どこでも借りられ、どこへでも返せるネットワーク」を構築している。しかも、このネットワークの利用者は、前橋市内の住人に限らず、近隣の高崎市など7市町村の住人も対象としている。利用者目線に立った注目すべき取組である。前橋市立図書館本館の老朽化に伴い、2031年、こども図書館も一緒に移転し、新たな図書館に生まれ変わる。子どもの居場所づくりとして、1日家族で過ごせるような滞在型の施設になる予定だ。今後の課題として、前橋こども図書館館長の三木恵美子さんは特別支援教育施設への貸し出しをより活発にすることをあげる。

昨今、前橋こども図書館に限らず、全国的に図書館の複合施設化が進んでいる。松江キャンパスは保育・教育を専門としており、おはなしレストランライブラリーとの連携の可能性は大きい。絵本に限らず、子ども向けの企画や場の提供を複合的に提案していきたい。

●えほん村（山梨県北杜市）について

ハケ岳山麓の高原に、まるで絵本から飛び出てきたような雰囲気のある図書館「えほん村」がある。館長の松村雅子さんは、ドイツ滞在を経て、1980年にイタリア・ボローニャ国際児童図書展にて最初の絵本を出版展示、その後帰国して1983年にえほん村を開設、「日本で最初」であるばかりか「アジアで最初」の絵本専門図書館だそう。館内には、松村雅子さんオリジナルの絵本をはじめとする約5000冊の絵本のほか、雅子さんのパートナーで木の造形作家である村松太郎さん作の人形たちが並んでいる。前橋こども図書館のような広さはないものの、絵本と木のぬくもりに満ちた空間がつけられていて、いつまでもそこにいたくなる。2階には人形劇の舞台がいつも展示されていて、自然と空想が広がるようだ。絵本の表紙が見えるような配架の仕方も実はえほん村が最初だったということだ。

おはなしレストランライブラリーでは、面出しの配架を当初から意識してきたが、そのルーツに今回の視察で出会うことができた。えほん村は小さいながらも他の図書館とは一味も二味も違った、個性あふれる図書館である。同様に小さなおはなしレストランライブラリーも、「ほかとは違う」と言ってもらえるような存在感のある図書館にしていきたい。

